天皇陛下御即位記念
第74回国民体育大会 いきいき茨城ゆめ国体2019

10月2～7日／フジ取手ボウル

# 和歌山県が悲願の総合初制覇

◀「5 年越しの悲願が実り感無量」と西田監督（前列中央）。2015 年の地元開催では結果が出なかったが、地道な強化の継続が実を結んで初の総合優勝の和歌山

令和元年、そして天皇陛下御即位記念大会となった第74回国民体育大会“いきいき茨城ゆめ国体”のボウリング競技は、取手市のフジ取手ボウルを会場に、10月2日から6日間熱戦が展開されたが、和歌山県が少年男子個人戦と成年男子2人チーム戦の2種目を制したほか、各種目で得点を稼いで初の総合優勝に輝いた。

▲少年女子個人戦優勝の水谷選手は、団体戦では3連覇を達成

◀「詰めが甘くて2位が多かったので、素直にうれしい」と、少年男子個人戦で快勝の坂原選手

▲少年男子団体戦で劇的な逆転Vの北海道

## 個人戦

少年女子の部は、数名が横一線で迎えた決勝最終G、水谷秋穂選手（愛知）が267を叩いて抜け出し、2位の小林茜選手（徳島）に78ピン差をつける1902で初優勝を飾った。

少年男子の部は、予選を1403と快調に飛ばした坂原慎平選手（和歌山）が、決勝も649とまとめ、トータル2052で快勝した。予選8位通過の林元輝選手（愛知）が、1973で2位に食い込んだ。

成年女子の部は、予選2位の両手投げ・横山実美選手（神奈川）が、決勝を618とまとめ、トータル1926で逆転優勝を飾った。予選6位の清野えみり選手（北海道）が最終G238を打って1904で2位に入った。

成年男子の部は、予選2位の鶴見亮剛選手（神奈川）が決勝2G目に269を打ってトップに立つと、最終Gも238を打ってトータル2133で優勝、決勝で723と伸ばした村濱裕紀選手（沖縄）が2100で2位だった。

## 団体戦

少年女子の部は、愛知県（近藤・水谷）が東京都（野仲・矢野）との大熱戦を8ピン差振り切る3623で優勝した。個人戦との2冠の水谷選手は、毎年パートナーが代わりながらの3連覇だった。

少年男子の部は。トップの愛知県（林・齋藤）から103ピン差で最終Gを迎えた北海道が、今年の全日本中学選手権優勝の両手投げ・紺谷涼太選手が278を叩けば、パートナーの能呂孔策選手も266を打って、トータル3932で鮮やかな逆転優勝を飾った。

成年女子2人チーム戦は、予選1位の三重県A（谷原・入江）が、決勝は苦しみながらも、千葉県A（向谷・鈴木）の追い上げを16ピン差退ける3693で優勝した。

成年男子2人チーム戦は、2位に100ピン以上の差をつけて決勝に進んだ和歌山県A（和田・安里）が、決勝で神奈川県A（斎藤・佐々木）の猛追にあったが、14ピン差抑える3991で優勝を飾った。

成年女子4人チーム戦は、3位で決勝に進んだ前年優勝の神奈川県（藤原・横山・菅野・佐藤）が、決勝は安定した内容で2513を打って、トータル4939で逆転で連覇を飾った。最終G907を打った和歌山県（伊勢川・山本・安里・川口）は、23ピン及ばず2位だった。

成年男子4人チーム戦は、4人中2人が60代の熊本県（村上・下林・中川・吉本）と、21歳の高平沙也斗選手がチームリーダーの愛知県（山田・犬飼・近藤・高平）の対照的な両チームの優勝争いは、最終G、10フレのアンカー勝負までもつれたが、5236の熊本県が3ピン差振り切り初優勝を飾った。

▲成年の部個人戦は、神奈川県の鶴見選手（左）と横山選手が男女アベック優勝

## 総合

皇后杯得点を争う女子総合は、成年4人チーム戦と成年個人戦の2種目を制した神奈川県が、2年連続4度目の1位に輝いた。

天皇杯得点を争う男女総合は、少年男子個人戦と成年男子2人チーム戦優勝のほか、各種目でコンスタントに得点を稼いだ和歌山県が、神奈川県の3連覇を阻止し、悲願の初制覇を果たした。

▲成年男子4人チーム戦で初優勝を喜ぶ熊本県

▲取手市のフジ取手ボウルが6日間の熱戦の舞台となった